情報公開文書 v2.0

研究の名称	フェンタニル速放性製剤の使用状況に関する多施設調査研究
整理番号	R2017116
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者	富山大学学術研究部医学系臨床腫瘍学 梶浦新也
研究の概要	<p>【研究対象者】当院（および厚生連高岡病院・富山県立中央病院・富山市民病院・金沢大学・石川県済生会金沢病院・福井大学附属病院・福井済生会病院）にて研究期間内にフェンタニル速放性製剤（当院で使われる薬としては「アブストラル」という商品名の痛み止めです）が処方された方 ただし、未成年者、研究責任者が不適切と判断された方を除きます</p> <p>【研究の目的・意義】フェンタニル速放性製剤は本来、痛み・突出痛を早く取り除くことを目的に処方されます。しかし日本国内では経口摂取困難を理由に処方されている可能性があります。この状況についての調査は前例がなく、フェンタニル速放性製剤の処方状況を調査することには意義があると考えています。</p> <p>【研究の方法】当院にてフェンタニル速放性製剤が処方された方について、カルテの情報をもとに処方状況を調査します。</p> <p>【研究期間】2018年3月12日から2022年3月31日まで</p> <p>【研究結果の公表の方法】アメリカ腫瘍学会などの国際的学会、および日本臨床腫瘍学会・日本緩和医療学会などの国内学会で発表します。また臨床腫瘍学会誌などの国際的な研究雑誌で公表する予定です。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法（他機関への提供の有無）	<p>情報の項目としては、年齢、性別、診療科、原発臓器（腫瘍が初めにできた臓器のことです）、PS（元気の指標の一つです）、定期オピオイド薬（痛み止めの種類の名前です）の種類と量、フェンタニル速放性製剤開始理由、開始場所（入院か外来か）、時期（化学療法施行中か、施行前か、施行後か）、開始日および死亡日、転帰日（転院などで経過が追えなくなった日）、転帰理由。</p> <p>利用方法としては統計的に解析して処方状況を調査研究します。他機関には情報の提供は行わないです。</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	<p>厚生連高岡病院 緩和ケアセンター長 村上望 富山県立中央病院 緩和ケア科部長 竹川茂 富山市民病院 緩和ケア内科部長 船木康二郎 金沢大学 麻酔科准教授 山田圭輔 石川県済生会金沢病院 外科部長 龍澤泰彦 福井大学附属病院 がん治療推進センター長 片山寛次 福井済生会病院 緩和ケア科医長 加藤泰史</p>
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	<p>情報の管理責任者：富山大学学術研究部医学系臨床腫瘍学 梶浦新也 研究主機関における研究責任者：富山大学学術研究部医学系臨床腫瘍学 梶浦新也</p>
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7808 FAX 076-434-5112 E-mail d12433@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学学術研究部医学系臨床腫瘍学 梶浦新也</p>